

私はアスペルガー障害の姉をもつ妹です。

姉は小学校からいじめに遭い、高校で中退、それ以降は自宅で生活しています。その間、家庭内暴力などもあり家族は生きた心地のしない年月を過ごしましたが、今思うと、専門家もおらず、家族にも障害を理解してもらえず、姉がいちばん苦しかったのではないかと感じます。

今回の被告人の方が、きょうだいを殺害したというのは、許されないことではありますが、私としては、その状況は理解できるように思います。姉も私を殺そうと攻撃してきたことはあったし、逆に私も姉に本気で殺意を抱いていた時期もありました。

アスペルガー障害の方は、自分のことを理解してもらえないことから起こる被害感情と、現実との折り合いをつけるのが苦手なのが障害のひとつの特徴です。ですから今回の方の考え方や行動を変えるために必要なのは、刑罰ではなく、専門的な支援であると思います。罰は、むしろ被告人の方の恨みなどの社会的に間違った認知をいっそう強化してしまうのではないかと思います、遺されたご家族がいっそう心配です。

また、自分自身の意見や主張を正確に伝えることが苦手なもの、アスペルガー障害の方の特徴のひとつです。相手はそのつもりがなくても、誘導されるように事実とは違うことを話してしまう、ということのごく日常的に起こります。特に取調べや裁判においては緊張感も高いため、被告人の方が見た事実や実際に感じていたことが正確に語られていると捉えるのは難しいのではないかと思います。

私たち家族の場合、一般の精神科医ではアスペルガー障害と診断してもらえませんでしたでしたが、発達障害の専門の医師や臨床心理士に出会ったことで、障害をどのように捉えればよいか知り、姉の障害について、また姉の思っていることについて、理解できるようになりました。姉自身も自分自身を認めてもらえる専門家に出会えました。私たち家族も専門家と相談し、姉に私たちの思いを理解してもらうためにはどのような関わりをすべきかも教えてもらい、現在は姉と家族とは、とてもよい関係ができています。

精神障害の方の裁判において、障害を理由に罪を軽くしてもらうということは望んでいませんが、支援や治療と刑罰はまったく別物です。特にアスペルガー障害については、支援はご本人を助けるためだけではなく、家族や周囲の人を救うことにもなります。私はそれを身をもって体験したため、現在は臨床心理士として、支援の仕事をしています。

また、事件について正確に知るためには、障害を理解し、被告人の考え方や発言をサポートできる専門家が、取調べや裁判において同席する必要があると考えます。

刑罰を重くする理由として障害が用いられることは、間違っているし、同じような境遇にいるたくさんの方々にとって、とても絶望的です。被告人にとっても、不公平感なく罰を与えられて初めて、障害のせいにするのではなく、自分の犯した罪の重大さに気づけるのではないのでしょうか。裁判の際には、障害を理解した上で、それと刑罰とを関連付けて考えないという前提が必要であると思います。